

### 平成3年度の福祉関係新規事業

<b>1 高齢者や身障者の住みよいまちづくり事業</b>
8億4800万円を予算計上。来年度以降も必要な改善を行う。
<b>2 地域福祉基金の設置</b>
県に20億円の基金を設置、その運用益で社協や福祉団体、ボランティア等が行う民間福祉活動に対する助成を行う。
<b>3 財明るい長寿社会づくり推進機構の設立</b>
高齢者が長年培った経験、知識、技術を生かして積極的に社会に参加できるよう生きがいと健康づくりを推進する民間組織。官民出資により3年11月に設立し、高齢者大学、情報誌の発行、スポーツや文化のイベント、世代間交流事業、高齢者人材バンク等の事業を行う。

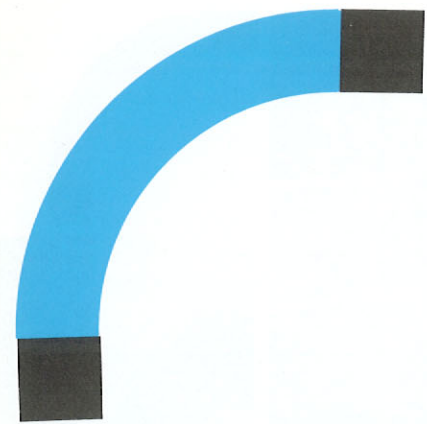


**知事** 今度の予算では、さきにお話した高齢者や身障者の住みよいまちづくり事業の他、「地域福祉基金の設置」と、「財明るい長寿社会づくり推進機構の設立」を計上しました。お年寄りの方々と障害者の方々にきめの細かな政策というものを考えると、机の上で考えていてもわからないことがたくさんあるものだから、ご意見を聞きながら皆さんに喜んでいただくような、役に立つような形で運用したいと思います。

最後に、障害者の方々には、自立の精神で頑張ってもらいたいのが、やはり一つの大きな基本だと、あえて申し上げます。また、社会全体として、お

年寄りや障害者に対してだけでなく、人間対人間の関係において思いやりの気持ちというものをもっと持たないと、今の社会はぎすぎすしたものになっていくんじゃないかと思えます。そういう意味で、教育の問題なんかもお話があったんだけど、そういう思いやりの気持ち、優しい気持ちを皆が持つということが社会全体として大切だと思います。そういう中でまた、行政としてさらに一層努力をしていきたいと思えます。また、折にふれて話を聞かせて下さい。今日はありがとうございます。

## 一人一人が思いやりの気持ちを持って



デイサービスセンターで歩行訓練中のお年寄りに明るく声をかける西村さん。

## 皆が一緒に生きていく地域社会に

**西村** また、お年寄りだけの生活よりも、

ちっちゃい子供の声や赤ちゃんの手に触れるということが必要じゃないかなと、保育所・幼稚園と月に一回ずつ「ふれあいの時間」を持っています。最初はお年寄りが近づくに泣き出す子もいましたけど、一年間、毎月一回やりましたら、後では「あら、おばあちゃん」と駆け寄って抱っこされるようになりました。そして保育所の先生方がふれあうようなゲームをなさるわけです。それがお年寄りには活力に、園児の方には、お年寄りは汚いんじゃないって大切な人だと感じさせるんです。

**成瀬**

福祉には地域のオリジナリティーがあつていいと思うんです。そのような社会福祉というのが一番良いんだろうと思います。うちでも「ふれあい事業」をやっていますが、昔なら自然にできたことを、今はもう行政や社会福祉協議会がわざわざ設定しなければいけないということ自体がおかしいんじゃないけども、そういうふれあいが少なくなっているのが現実です。障害者を知らない、本当のお年寄りを知らない、寝たきりの人を知らない、そのにおいて知らない、そんな子供たちが増えてきています。

**田上**

東京、大阪というのは、あまりにも人口が過密した、もうすでにで上がつた街です。それに比べて地方の都市、熊本などはこれからです。だから良くも悪くもなれる。環境は申し分ないし、人材も豊富だし、日本の福祉のモデル県になるよう私たちも頑張っていきたいと思っています。

